

# 平成二十九年、戦後の転換点

平成29年12月号(250号)  
(皇紀2677年) 毎月1日発行

# 新風

編集人 瀬戸 開

発行人 魚谷 哲央  
年間購読料 2,000円

維新政党・新風本部  
〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下ル  
第2ふじビル4階  
TEL.075-708-3700 FAX.075-708-3800  
<http://shimpu.jpn.org/>  
[otayori@shimpu.jpn.org](mailto:otayori@shimpu.jpn.org)

平成二十九年は、大東亜戦争敗戦後七十年余の戦後日本の歩みの中で激動最大の年であつたと言へるであらう。今上天皇陛下の御譲位が賛否両論の中で国会で法的にも確定し、再来年の然るべき時期に御代替りが行はれることとなつた。近代日本国家を成し立てしめた明治維新から一五〇年の平成三十年、御譲位へむけた諸準備が進められることとなるが、明治政府が歴史の教訓をも踏へて一世一元制を定めてから明治・大正・昭和・平成と経て来た元号が御譲位による新たな御代へ改元されることとなる。

皇位継承における男系皇統の護持を企図する皇室典範の改正が早急に図られねばならないが、これからの皇室の在り方、国体の在り方が国家の基本問題として大きく問はれることとなつたことが、先づ本年最大の特徴であらう。

犯罪国家北朝鮮による同胞拉致犯罪は膠着状態であるが、核開発や度重なるミサイル発射によるわが国に対する軍事的恫喝は、米

敵するが如く、平和憲法に浸り切つてゐた戦後日本の喉元に刃を突き付けた格好である。現行憲法体制下で平和ボケして来たわが国の国防体制は、中共による尖閣列島に対する侵略行動に全く機能しないことを露呈させた。自衛隊は米軍の後方支援以上のことは為し得ず、米軍にすがる以外の策はないに等しいのであるが、その事実が国会で真剣に論議されることもなく、米軍の方針に関する賛否の評論が蔓延るのみである。

この状況は米国からしても奇妙な現実であり、大東亜戦争において熾烈な戦闘を繰り広げた武士道の国・日本は何処へ行つたのかといふ素朴な疑問も当たり前であらう。しかしそれは、米国による占領政策とそれが集約された現行憲法をあてがはれ、従はざるを得なかつた日本が米国側の意図以上に日本弱体化占領政策に馴致されて来たとしか言ひ様がない。自民党主導の戦後政治は憲法改正に対して党是に相反する不作為を続け、

国民にもその問題意識は希薄である。安倍政権も風見鶏に徹して世論喚起の強い覚悟もない。また、中韓両国による国際的な歴史戦の展開(慰安婦問題など)は本年米国や国連を舞台に拡大してをり、安倍政権はそれに全く対応できずに、一方的に国の品格を貶められ続けてゐる。戦後体制の積弊が極まつた深刻な状況である。

産業界の変容を模索しながら慎重を要する重要課題である。保育園への待機児童解消問題や教育の無償化問題なども政治課題として本格的論議が始まつたのも本年の特徴である。しかし、現象面への対応策のみではなく、家族制度や安易な墮胎など、より根本的な視点が不可欠である。

安倍首相は秋の衆議院解散総選挙の中でアベノミクスの成果(株価上昇、低失業率など)を吹聴してゐたが、大企業層はいざ知らず、中小零細企業の庶民層にその実感はない。安倍首相は賃金増昇要求を財界に度重ねて行つてゐるが、企業自体にも景気動向への不安があつて内部留保を積み上げる傾向にある。

かつての高度成長を望むべくもない経済段階にあることを直視し、バランスのとれた経済産業構造への価値転換へと舵を切る時期ではなからうか。足るを知り、真面目に働き生活できる社会構造を再構築するための役割を果たすのが国の責務である。

巨額な財政赤字をめぐつては、様々な評価がある。国債の暴落による財政破綻の危険を論ずる者、国債は国内において消化されてをり、それに比肩する国の資産があるので心配無用と論ずる者、いづれにしてもバラ撒き財政の放漫さはGDPの倍以上の赤字と化してをり、世界の中でも突出した異常事態であり正さなければならぬことは確かであらう。

以上、平成二十九年に表面化した主要な国家的・社会的課題を略述したが、それらへの対応を誤ればいづれ国家衰亡の道を転がりかねない情勢であり、安倍首相が先の総選挙において「国難突破」総選挙であるとしたことは正しい。

## 新風驟雨

しんぷうしゅう  
▼幕末の志士・坂本龍馬の没後一五〇年の命日、京都の墓前にて慰霊祭が営まれ集まりたるファン三〇〇余名。はてさて龍馬ファンとは如何に。察しまする処、彼の物書き「司馬遼」史観により創作されし実像とは余りにも懸け離れたカリスマ的龍馬信奉者をいふのであらう。▼昨今、自称歴史家を気取つた輩による奇を衒つたトンデモ本が巷に溢れてゐる。内容は実に幼稚で粗雑だ。最早、憤りを通り越して憐れみさへ覚える。▼然う言へば何やら教科書から龍馬、松陰、他幾人かは知らぬが名が消えるらしい。提案理由は単に暗記用語が増えすぎたから?ださうだ。歴史の本質は教へず只管に暗記教育。片腹痛い。▼「緋く史に止み難き憂国の情時事の鐘民縹渺の春の海に 治安和楽の夢に酔ふ」畢竟、今の日本人の心に「日本」の存在そのものが消えかけてゐる。肇國以来「乱」数ある中、現今戦後体制と称する「大乱」は史上最悪の危機的状況下にあるといつても過言ではなからう。▼取り戻さうではないか、日本精神を。而して再び原点に立ち帰らう。めざめよ日本。是に儘さる。

### 本紙目次

- 一頁： 我等維新政党・新風は、結党以来初の不祥事を乗り切り、維新政治勢力構築への歩みを再確認し直した平成二十九年であつた。
- 二頁： 党声明 他

(房)